

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290401197		
法人名	株式会社 SOYOKAZE		
事業所名	ちば若葉グループホームそよ風 2Fユニット:空風		
所在地	千葉県千葉市若葉区若松町531-642		
自己評価作成日	令和5年10月21日	評価結果市町村受理日	令和6年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

空風では、介護度が高い方が多い為、ご自身の意志を尊重し「今、何がしたいのか?」などという思いを汲み取り提供または、支援できるか努めております。
 入居者一人ひとりのペースを重視しつつ掃除や食事作り、洗濯物たたみなども、集団生活という中でも、ご本人様が得意な事、いつもしていただく家事等も今までと同じように出来るようスタッフ一同支援しています。
 また、閉鎖的にならないよう風通しの良い環境作りの一つとして、天気の良い日には、スタッフと一緒に散歩やスーパーに買い物に行かれたりしております。
 コロナ禍で外部との接触が絶たれてしまっておりましたが、今後は自治会との連携を取り、イベントの参加、または防災訓練等の参加を行って参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念があるが、スタッフと一緒にちば若葉の理念を作り、覚えやすく身近に感じられるよう、①一致団結②モラルモチベーション③統一と「④⑤⑥⑦」というスローガンをあげている。一つ一つの事をスタッフ一団統一し、困難なことがあっても、協力し解決できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響でここ3年は外部との交流は行っておりませんが、これからは積極的に交流をし、外部との関りを増やして参ります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議や自治会など通して、相談や会話の中の話題がでた際に応じております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年はまだ2回しか行っておりませんが、11月より毎月運営推進会議の中でご家族様の意見や思いなど頂きその都度、検討し改善など具体的にお伝えできるように努めております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催時にて、情報提供を行っている。また、市役所や居宅へあいさつ回りの時などに情報提供や共有を行っている。今後は千葉市介護相談員の受け入れを行っていきたい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階から2階への行き来が自由に出来るよう1階も2階も扉に鍵をせず対応しています。日頃から、身体拘束について正しく理解をもてるように、研修や会議の後の勉強会を開催しています。そこで学んだことを、このセンターにどう活かして学び取り入れられるよう情報を落とし込み対応しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業部研修や外部で開催される研修で、身体拘束・虐待についてまなぶ機会を設けております。スタッフに参加し、学んだ事を会議に発表し情報共有し取り組んでおります。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	空風では、成年後見人制度を利用されようとしている入居者様があります。今後も制度を必要な方の入居の可能性もあるが、学ぶ機会がないため今後、学べる機会(研修など)を設けて全スタッフが周知し理解できるように努めていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などの際、書類を読みあげをし十分な説明をさせていただいております。その際に疑問点や質問、不安な箇所がある際には、納得と安心できるまで説明しております。また、疑問などが終了後でも電話などでも対応しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来所された際に、必ず要望や不安に思っている事、疑問に思っている事などないか会話を通して伺っています。また、第三者窓口として本社や相談窓口を設置していることを伝えていきます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う全体会議や、個人面談、日常のコミュニケーションなどで意見や考えを聞く機会を設け、反映できるよう努めています。スタッフが意見など話せやすいように、現場にでてコミュニケーションをとれる時間と環境作りをし、検討しつつより良い方向へ繋げられるよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃からスタッフの状況をみて随時話す機会を設けたり、個人面談をするなどきっかけを作っております。また、契約更新時には、スタッフ個々の努力や実績の評価を給料に結びつけられるよう検討し申請しています。個々の個性を生かしつつ、働き甲斐のある職場作りを考えております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個々の能力など見合った内外の研修への参加を促し、学ぶ機会を設けております。自分自身も積極的に外部研修や本社の研修に参加し、他のスタッフへ勉強会等にて、伝え実践できるよう努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の内部研修に数人参加し、交流の機会を作り情報共有をしています。また、外部研修へ参加した際には、全体会議や申し送りノートなどを使い情報共有しています。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学の際の相談時から契約に至るまで、面談やお話を聞き時間をかけて伺っております。また、ご家族様やケアマネからの情報を頂きご本人様の状況を把握、理解し、より良い信頼関係を築けるように努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時に、ご家族様が現在困っている事や不安に思っている事、疑問に思う事、要望をお聞きし、スタッフ一同一緒にご本人様への支援を行えるような関係と環境作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までのご家族様やご本人様のお話をふまえて、現在の状況・ご本人様のペースをみて、ご本人様に今、必要な支援や環境作りは何かを見極めて、支援できるよう努めております。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の日常生活を送る中で、食事作りや掃除など一緒に行い、季節ごとの飾り替えなど様々な面で、暮らしの中で信頼関係や共有し合えるよう努めております。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、毎月ご本人様の状況報告をしつつ、ご本人様の要望を連絡する際にお伝えする等、密に入居者様の状態を共有し一緒に支えていく関係を築いています。また、ご本人様と過ごせる時間を少しでも多くもっていただけるきっかけ作りとして、行事のお誘いやいつでも会いに来てくださるよう声掛けをしています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問時は、ゆっくりと居室で過ごしていただいたり、時には一緒に外出したりとご本人様も、もちろんのこと訪問者の方も楽しんで頂けるよう努めています。また、ご本人様の希望にて書いたお手紙を投函したり、お電話を貸す等対応しています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアにて入居者様同士で談笑したり、毎日行っている体操や散歩などスタッフが間に入り、会話のかけ橋として対応しています。また、入居者様が他者様の居室に行き来する姿も見受けられます。入居者様間でトラブルになりそうな時は、スタッフがさりげなく間に介し対応しています。			

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	暑中お見舞いや年賀状のやり取り、電話などで電話を取ったりする関係が続いております。また、施設にて看取りをされましたご家族様が、契約終了後にも運営推進会議にてご参加いただき思いやお話を下さったりと交流があります。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の行動や発言、会話の中で繰り返し言葉からご本人様の気持ちや希望を考察しつつ、一緒に生活をしているスタッフからの情報をもらい、資料による生活歴やご家族様の情報など参考にしつつ思いや意向を把握に努めています。ここでの生活に繋がられるよう、支援できるよう対応しています。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時や入居時に生活歴を書いて頂いたり、お話で伺ったりケアマネから情報を提供してもらい、ご本人様の把握に努めております。また、ご本人様からのお話や私物などからも務めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中・夜間からの申し送りで、入居者様の一日の生活リズムや状況を把握できるようにしています。また、タブレットになった為体調の変化や細かく記録ができ、何かあっても素早い対応とスタッフ同士の情報共有ができるようになっています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のケアに対しての課題が上がった際、スタッフからの情報収集をしご家族様に状況をお伝えにご家族様からのアイデアやアドバイスを頂いています。また医療面については、訪問看護・訪問診療・個々の医療関係(各専門師)から状態に応じた相談をし、ご本人様に適しているケアプランを反映している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や健康チェックを毎日記録し、日々の生活状況を一目でわかるように業務日報にしたりケア指標集計表など使っています。また、申し送りノートを使い些細な事や変更点、報告などし、ヒヤリ・ハットを活用する事で、情報把握、共有や気づきができています。会議などで話し合いを行い入居者様により良い支援に繋げるようにしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空風では、ご家族様のニーズにて訪問マッサージを週2利用されております。また、ご本人様の希望にて訪問理美容など利用して頂き喜んでいただいております。			

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーにスタッフと一緒に買い物をするなど支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご本人様の意見を尊重し、以前の掛りつけの病院やそよ風と連携している訪問診療を選んで頂くなど選べることで、ご家族様と医療と施設との医療について支援と安心できる連携が築いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2の専門医療訪問や、訪問診療や訪問看護との24時間電話対応で、入居者様の急変時や相談などし、素早い指示やアドバイスができています。医療連携を細目にし情報共有を行い健康管理をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院の主治医からの情報を送って頂いたり、こちらの生活状況をお伝えし、情報共有しております。また、ご家族様からのお話を伺ったり入院先とご家族様の経過報告や今後の治療方針の席に同席させて頂きより良い情報交換と共有しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の意志やご家族様の意向・主治医との考え・施設での準備など色々ふまえ、情報共有・話し合いをし今後の支援について方針にズレがないように、その都度記録・内容確認を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や施設のマニュアルの明確化を行っています。また、緊急時に対して設備の場所やAEDの使い方を確認をしています。また、連絡方法や早急時の流れやご家族様の要望に合わせての把握を行う事が課題です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防法に従いつつ、夜間・日中に対して地震と火災、水害と実施しています。また、年に1回消防署の立ち合いのもと避難訓練を実施しており、地域との協力体制として観覧版やチラシを配り避難訓練の呼びかけや自治会の区の代表者との協力を得られる体制を作っております。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や個性を尊重しつつ、認知症による症状を把握し、ご本人様自身に負担をかけず、否定せずにご本人様の思いや意向を組み取り、話に耳を傾けるなど行い環境づくりやコミュニケーションを行っています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からのコミュニケーションや散歩や余暇時間を使い入居者様の言葉や思いをきけるきっかけ作りを行っております。また、入居者様の強い要望や決定したことに対して、スタッフは、現実に行えるようにご家族様の協力を得るなど支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやペース、性格を把握し、ご本人様の気持ちを大切に、ご本人様が以前と変わらず過ごしていただけるよう支援しています。また、自発的な行動や発言を大事にしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事、入浴時や外出の際には、スタッフと一緒に洋服を選んだり支援しております。また、整容では、ご自分の好みの化粧水など持参してお化粧を楽しまれるております。ご自分で行えない時には、ご本人様の好きな色や服装を伺いつつ対応しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様の状況に応じて食事を楽しく美味しくいただく為に、見た目につけて刻みやお粥など工夫したり、一緒に調理などを行っております。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の中には、食事制限や主治医に基いて指示をある方がいますが、主治医と季節によって相談しながらも、1人ひとりの水分量や食事量に応じて提供しております。また、毎月2回の体重測定を行い増減の大きな変化にも早期に発見し、その都度、対応しております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛けなど徹底しております。また、ご自分で出来ない方については、スタッフが加入して口腔ケアを行っています。毎月、訪問歯科の先生からの指示やアドバイスなどいただき、個々に合った支援をしています。			

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などを活用し排泄パターンを把握しております。また、個々の排泄パターンを把握する事で失敗の回数を減らし、自尊を傷つかないう声かけなど工夫し支援しております。排便のコントロールも、主治医に相談し服薬にてコントロールしております。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、起床時に腸の活動を促す為、カルピスや牛乳など提供し朝食には、必ずヨーグルトを提供して自然に排便が出るように工夫しております。また、天気の良い日には、散歩や室内で行える体操など取り入れたりと、対応しています。それでも、難しいときには、主治医と相談しご本人様に、合った薬を処方しています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の体調などを考慮しつつ、その日の気分等に合わせ入浴の対応を行っております。また、ご本人様の今までの生活スタイルで希望や要望に合わせて時間や曜日を合わせるなどしています。気分転換にて、入浴剤や季節もの(柚子など)を使って入浴が苦手な方も工夫しております。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の一人ひとりに合った生活リズムや習慣を大切にしつつ、日々の体調状態や状況に応じた支援を行っております。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医とご本人様と相談しつつ、ご本人様に必要な薬を処方してもらっています。薬の変更や追加があった際は、申し送りノートを活用し随時スタッフに伝えております。薬の変更等あった日には、必ず記録し些細な変化にも気付けるよう徹底しています。また、薬剤師からも変更がなくても個々の薬の説明をして頂き、間違いがないか確認と連携を図っております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の生活歴を把握しつつ、日頃の習慣やリズム、コミュニケーションの中からヒントを見つけております。ご本人様の苦にならないように、役割を見つけ、楽しみ事は続けられるよう支援しております。また、散歩や買い物などで気分転換をはかっていただいております。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様から希望が聞かれた際は、ご家族様に相談し必要に応じた業者や機関に協力していただきながら、希望にそえられるよう努めております。			

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お客様からのお預かり金(1人除く)は対応しておりません。一時的に施設が立て替え金を		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様よりご希望があった際には、施設の電話を使用して頂いている。手紙に関してもやり取りができるように必要なものを用意したり、ポストに投函するなど支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活で使用する物は、入居様がわかりやすい場所や、取りやすい場所など工夫しています。また、何が入っているのかも分かるようラベルを貼ったりしています。入居様の状況や状態に合わせて、テーブルや椅子の配置を変え安全に過ごせるよう対応しています。掲示物は、その季節を感じとれるよう、入居様にも協力して頂き作成し季節を味わえる空間・環境を作っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居様は、フロアにて談笑したり将棋をさされたりしています。また、それぞれの居室を行き来したり、居室にてゆっくりとご自分の居室にて過ごされたりしています。また、1階へ遊びにスタッフと一緒にいられるなど、1階の方との交流を深めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、以前からご本人様が使い慣れていた、気に入っていた物を今までの生活環境と近く出来るよう必要に応じて持参していただいております。入居後も、ご本人様の要望が聞かれれば、ご家族様と相談しつつ対応しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など、入居様がわかりやすいように、表示しています。 また、安全に安心できるよう、日常生活においても歩行時に危険な物や配置にならないよう環境整備を常に行っています。		

【評価機関】